

各地区例会開催記録

ナゴヤ例会

回	年月日	発表者	題目
第1回	昭和40 (1965) 年 1月9日	松浦 暢 (名古屋商大)	表現における時間の問題 —川端康成『雪国』とその英訳との比較から時制を中心に—
第2回	2月6日	今井文男 (金城学院大) 藤掛庄市 (名古屋大院生) 永田友市 (熱田高)	表現における時間の問題 Richards, The Philosophy of Rhetoric について 文体論の一つの試み
第3回	3月27日	金子江村 (日本福祉大付立高) 外山滋比古 (東京教育大)	解釈と鑑賞の一視覚 表現の生命
第4回	4月24日	西田正好 (愛知淑徳短大) 山本 昂 (金城学院大)	文体と精神病理 言語と文学
第5回	5月22日	中村 敬 (南山大)	ホガティ―著『新修辞学の根』について
第6回	7月10日	前川清太郎 (静岡大)	言語表現における表現性と伝達性について
第7回	9月25日	井上亮治 (愛知淑徳短大)	擬声語・擬態語
第8回	11月20日	浅若 佐 (金城学院大)	視点と話法—V. Woolf の Legacy と和泉式部日記—
第9回	12月4日	今井文男 (金城学院大)	表現の遠近法
第10回	昭和41 (1966) 年 1月22日	永田友市 (熱田高)	柗太郎と寅彦の文体比較
第11回	4月30日	今井文男 (金城学院大)	背景理論
第12回	5月14日	山本 昂 (金城学院大)	イメージとイメージラリー
第13回	6月25日	進藤義治 (鈴鹿高専)	源氏物語における情緒表現

第 14 回	7 月 20 日	白川正夫 (愛知県立大)	言語表現の変遷—特に変形文法について—
第 15 回	11 月 5 日	平岩紀夫 (三重大)	シェイクスピアの四季の心象
第 16 回	12 月 3 日	本名信行 (金城学院大)	翻訳論
第 17 回	昭和 42 (1967) 年		
	1 月 28 日	杉浦 実 (三重大)	ドイツ詩におけるリズムと表現
第 18 回	2 月 18 日	根岸正純 (岐阜大)	文体論
第 19 回	4 月 22 日	杉浦 実 (三重大)	シンポジウム「表現における場と場面」
		進藤義治 (鈴鹿高専)	
		鵜木奎治郎 (保育短大)	
		司会：今井文男	
第 20 回	7 月 8 日	進藤義治	物語文学における「久し」の用例
第 21 回	9 月 16 日	成瀬敏之 (金城学院大)	作文教科書の批判
第 22 回	10 月 28 日	中村 敬 (市邨短大)	日英表現の比較
第 23 回	11 月 11 日	樺島忠夫 (京都府立大)	表現の科学
第 24 回	12 月 9 日	司会：永田友市	討議「今井文男著『場面分析法をめぐって』」
第 25 回	昭和 43 (1968) 年		
	1 月 20 日	前川清太郎 (静岡大)	漱石の表現—『明暗』を分析する—
第 26 回	2 月 3 日	藤掛庄市 (岐阜大)	外国語教育における「場」の設定
第 27 回	3 月 23 日	外山滋比古 (お茶の水女子大)	大きな話
第 28 回	4 月 20 日	藤掛庄市 (岐阜大)	意味について
		白川正男 (愛知県立大)	同上
第 29 回	6 月 22 日	松浦 武 (菊里高)	日本における年代記型小説の系譜
第 30 回	9 月 7 日	田中幸穂 (岐阜大)	リードの表現論
第 31 回	10 月 19 日	中野美彦 (金城学院大)	文章表現における主体の位置
第 32 回	11 月 16 日	森 米二 (愛知県立看護短大)	W. オウエンの詩の構造
第 33 回	12 月 14 日	藤平武昭 (岐阜大)	メディアの変遷とミメーシス
第 34 回	昭和 44 (1969) 年		
	1 月 18 日	今井文男 (金城学院大)	芭蕉の文章
第 35 回	3 月 1 日	西田正好 (愛知淑徳短大)	表現の根について

第 36 回	5 月 3 日	森 米二 (愛知県立看護短大)	Rupert Brooke の War Sonnets をめぐって
第 37 回	7 月 19 日	進藤義治 (鈴鹿高専)	「あはれ」の考察—六家集の歌における—
第 38 回	9 月 20 日	平岩紀夫 (愛知教育大)	現代英詩における抽象表現とイメージラリー
第 39 回	12 月 13 日	今井文男 (金城学院大)	場面係数
第 40 回	昭和 45 (1970) 年		
	1 月 17 日	森 米二 (愛知県立看護短大)	言語・語・詞・言葉・シンボル等々の用法限定の問題
第 41 回	4 月 25 日	本名信行 (金城学院大)	変形文法による日本文の分析
第 42 回	5 月 9 日	加藤鎮司 (中日新聞社)	コンピュータ時代の言語操作
第 43 回	6 月 20 日	久米常民 (愛知県立大)	表現研究—万葉集における私の方法—
第 44 回	7 月 11 日	日下部文夫 (南山大)	音節をめぐって
第 45 回	9 月 19 日	谷口 巖 (愛知教育大)	明六雑誌にみる国語論議について
第 46 回	10 月 31 日	本名信行 (金城学院大)	否定表現について
		杉浦実 (三重大)	同上
第 47 回	昭和 46 (1971) 年		
	1 月 23 日	今井文男 (金城学院大)	主語視点論
第 48 回	3 月 20 日	天野紘一 (金城学院大)	ペオウルフにおける詩語の一考察
第 49 回	5 月 8 日	杉浦茂光 (東海中)	「反歌形式は長歌形式の分解である」についての一考察
		藤美恵子 (金城学院大 院生)	弘法大師の言語哲学
第 50 回	6 月 26 日		第50回記念公開講演会
		樺島忠夫 (京都府立大)	表現の技術
		外山滋比古 (お茶の水女子大)	表現の受け手
第 51 回	7 月 17 日	友永輝比古 (三重大)	教育と芝居
第 52 回	9 月 11 日	島村 馨 (金城学院大)	パラドックスとエンブレム
第 53 回	11 月 27 日	工藤進思郎 (金城学院大)	源氏物語の表現—横川僧都の消息をめぐって—

第 54 回	昭和 47(1972) 年	1 月 22 日	鈴木貞雄(南山大院生)	G. メレディスの比喩的な表現と心象—小説 The Egoist における—
第 55 回		3 月 24 日	鈴置浩一(名古屋西高)	語法における意識の問題—動詞の活用・助動詞の接続等々—
第 56 回		4 月 22 日	今井文男(金城学院大)	表現の深さはどういう機構の上に成立するか
第 57 回		9 月 30 日	森 米二 (愛知県立看護短大)	A. H. ガーディナー「スピーチとランゲジの理論」と表現論
第 58 回		10 月 14 日	藤掛庄市(岐阜大) 本名信行(金城学院大)	最近のアメリカにおける言語学所見 (アメリカみやげ話)
第 59 回		11 月 18 日	今井文男(金城学院大)	表現における芸の成立の機構
第 60 回		12 月 16 日	久米常民(愛知県立大)	場面と表現—万葉集における—
第 61 回	昭和 48(1973) 年	1 月 27 日	島村 馨(金城学院大)	アイロニカルな表現—J. オースチンの場合—
第 62 回		3 月 24 日	片山 武(名古屋工芸高)	万葉集における敬語の問題点二三
第 63 回		4 月 28 日	杉浦 実(三重大)	ゲーテ『ファウスト』における文芸の成立—表現を媒介にして—
第 64 回		6 月 28 日	久米常民(愛知県立大)	文芸と表現機構—大会でのシンポジウムのまとめ—
第 65 回		9 月 29 日	本名信行(金城学院大) 今井文男(金城学院大)	アメリカ言語学会の近況 文と文の接続についての—提言
第 66 回		10 月 20、21 日	今井文男(金城学院大) 杉浦実(三重大)	文章表現法私見 ゲーテ遺跡めぐりの旅(ドイツのみやげ話)
第 67 回		12 月 15 日	浅若 佐(金城学院大)	イメージと表現構造 —V. ウルフのKew Gardens における—
第 68 回	昭和 49(1974) 年	1 月 19 日	稲垣泰一(金城学院大)	紫式部日記の比喩表現
第 69 回		3 月 23 日	森 米二(愛知県立看護短大)	詩の行の考察(その二)

第 70 回	4 月 13 日	天野紘一（金城学院大）	ペーオウルフにおける対照的表現— 明と暗・光と闇—
第 71 回	6 月 29 日	岩田淳二	認識とその構成 —カントを媒介に して—
第 72 回	8 月 7、8 日		討論：表現学の構図
第 73 回	9 月 28 日	大野 裕（愛知県教育 センター）	尾崎紅葉の『夏小袖』について
第 74 回	昭和 50(1975)年		
	6 月 21 日	森 米二（愛知県立看 護短大）	輪講『文章表現法大要』第一章
		都築久義（愛知淑徳大）	『人生劇場』の評価
第 75 回	7 月 5 日	森 米二（愛知県立看 護短大）	輪講『文章表現法大要』第二章
		吉田知子（愛知教育大）	談話の首尾一貫性とそれを保証する 項目について
第 76 回	9 月 20 日	白井伸昂（愛知教育大 付高）	輪講『文章表現法大要』第三章
		本名信行（金城学院大）	指示のシステムと社会的変数
第 77 回	10 月 25 日	杉浦実（三重大）	輪講『文章表現法大要』第四章
		西田正好（愛知淑徳大）	日本的美の表現
第 78 回	11 月 22 日	山本十次（愛知県教委）	輪講『文章表現法大要』第五章
		永田友市（岩津高）	漢字仮名交じり文
第 79 回	昭和 51(1976)年		
	1 月 24 日	片山 武（名古屋工芸 高）	輪講『文章表現法大要』第六章
		松浦 武（名古屋保育 短大）	日本近代小説の一元的構造
第 80 回	4 月 17 日	松原真志夫（五条高）	輪講『文章表現法大要』第七章
		今井文男（愛知淑徳大）	芭蕉の「世を旅に」の句
第 81 回	6 月 19 日	山田二郎（名城大）	音価推定の方法
第 82 回	7 月 3 日	根岸正純（岐阜大）	視点について—『表現学論考』第二 章を中心に—
第 83 回	9 月 25 日	池谷敏忠（金城学院大）	表現の味わいとしての文芸—『表現 論考』第三章を中心に—

第 84 回	11 月 6 日	河内夫佐子（旭陵高）	岸田国土の『歳月』
第 85 回	11 月 27 日	本名信行（金城学院大）	都市の子供と非都市の子供の言語使用の様式について
第 86 回	昭和 52(1977) 年		
	1 月 22 日	今井文男（愛知淑徳大）	芭蕉の「荒海や」の句
第 87 回	4 月 16 日	森 米二（愛知県立看護短大）	詩における現在時制 ーいわゆる「歴史的現在」を中心にー
第 88 回	9 月 10 日	河内 章（名古屋北高）	古今集歌の修辞上の問題
第 89 回	10 月 22 日	大野 裕（愛知県立看護短大）	『金色夜叉』における「けり」の用法について
第 90 回	11 月 12 日	今井文男（愛知淑徳大） 杉浦茂光（知多中）	野ざらし紀行の疑問点一二について 旅人の歌一首
第 91 回	12 月 17 日	永田友市（岩津高）	国語教育における表現の問題
第 92 回	昭和 53(1978) 年		
	1 月 14 日	片山 武（名古屋市立緑高）	万葉集卷十一ー二六三〇「結紐解日遠」の訓釈について
第 93 回	4 月 15 日	根岸正純（岐阜大）	前期自然主義小説の文体
第 94 回	6 月 24 日	天野紘一（金城学院大）	古英詩「ペーオウルフ」に於ける表現法と語義の決定
第 95 回	7 月 15 日	藤掛庄市（岐阜大）	英語文章表現始め
第 96 回	9 月 30 日	永田友市（県教委文化財課）	辞書の説明
第 97 回	10 月 28 日	今井文男（愛知淑徳大）	表現における自己反照
第 98 回	11 月 11 日	本名信行（金城学院大）	在米研究一年間の收穫
第 99 回	昭和 54 年(1979)		
	1 月 20 日	岩田淳二（金城学院大）	形象の成立と構想力との問題
第 100 回	4 月 21 日	根岸正純（岐阜大） 塚原鉄雄（大阪市立大）	記念公開講演会 表現と距離 芥川作品の表現構成
第 101 回	6 月 23 日	鈴置浩一（愛知淑徳大）	国語表現の問題
第 102 回	7 月 7 日	川内 章（名古屋市立北高）	芭蕉の色彩感覚と尽日の句の表現について
第 103 回	9 月 22 日	山田 正（名古屋市立緑高）	柿本人麻呂における隠喩表現

第 104 回	10 月 27 日	藤掛和美（豊田高専）	「雨ニモマケズ」の解釈をめぐって
第 105 回	12 月 1 日	今井文男（愛知淑徳大）	表現と距離
第 106 回	昭和 55(1980) 年 4 月 26 日	稲垣泰一（金城学院大）	『俊頼髓脳』の一和歌説話の解釈とその受容—〈字謎〉の視点を通して—
第 107 回	7 月 28 日	木村恭造（京都市立日吉高）	冠句の表現
第 108 回	昭和 56(1981) 年 5 月 2 日	大野 裕（愛知県立看護短大）	新美南吉の「窓」
第 109 回	6 月 20 日	藤掛庄市（岐阜大）	表現の送り手と受け手のグラマー—ベータエンコーディングとアルファエンコーディング—
第 110 回	昭和 57(1982) 年 6 月 19 日	加藤康一（日進高）	高等学校における国語教育—芥川龍之介「羅生門」の学習指導をめぐって—
第 111 回	7 月 10 日	甲斐睦朗（愛知教育大）	地の文・会話文・内話文のうつり—中島広足「うつり詞」をもとに—
第 112 回	昭和 58(1983) 年 7 月 14 日	永田友市（愛知淑徳大）	挨拶語の指示性
第 113 回	昭和 59(1984) 年 8 月 29 日	甲斐睦朗（愛知教育大）	中国事情報告（日本語教育のことについて）
第 114 回	12 月 8 日	森 米二（愛知県立看護短大）	戦争詩の一面
第 115 回	昭和 60(1985) 年 6 月 1 日	永田友市（愛知淑徳大）	距離表現としての現代敬語
第 116 回	9 月 21 日		『表現学論考 第二』打合せ
第 117 回	12 月 14 日	河内 章（名古屋市立北高）	越中における大伴家持の歌の表現
第 118 回	昭和 61(1986) 年 5 月 11 日		『表現学論考 第二』出版祝賀会

第 119 回	10 月 11 日	多門靖容（名古屋大院生）	比喩の史的的研究に関する問題
第 120 回	11 月 29 日	牧 恵子（愛知教育大院生）	読解過程の史的的研究—垣内松三「国語の力」をもとに—
第 121 回	昭和 62(1987) 年		
	6 月 20 日	浦部重雄（愛知淑徳大）	「何とて松のつれなからん」
第 122 回	7 月 17 日	石黒由香里（愛知教育大院生）	中学校の万葉集教材の研究
第 123 回	9 月 26 日	林志保（国府高）	イメージ化をめざした新古今和歌集の指導
第 124 回	12 月 19 日	堀内俊和（愛知淑徳大）	英語の前置詞句連鎖の解釈について
第 125 回	昭和 63(1988) 年		
	5 月 14 日	片山 武（金城学院大）	万葉集巻一・巻二の短歌の句切れについて
第 126 回	11 月 12 日	鈴木理保子（県立農業大学校）	「永訣の朝」の表現について
第 127 回	12 月 17 日		今井文男氏勲三等瑞宝章受章祝賀会
第 128 回	平成元(1989) 年		
	1 月 28 日	浜森太郎（三重大）	送迎行動の文学化について
第 129 回	5 月 6 日		第26回表現学会全国大会（名古屋大会）の実施運営についての委員会
第 130 回	6 月 10 日	多門靖容（愛知学院大）	車の風景 —広告コピーの表現論—
第 131 回	7 月 22 日	河内 章（名古屋市立北高）	更級日記の構成 —源氏物語への憧憬—
第 132 回	10 月 21 日	花井隆宣（愛知教育大院生）	文章表現と言語感覚
第 133 回	12 月 10 日	大野 裕（愛知県立看護短大）	南吉「久助君もの」への一視点—呼びすてから君づけへ—
第 134 回	平成 2（1990）年		
	2 月 17 日	牧 恵子（愛知教育大院生）	文学作品の視点
第 135 回	7 月 1 日	松浦照子（名古屋短大）	酒を味わうことば
第 136 回	9 月 2 日	根岸正純（岐阜女子大）	志賀直哉の文体

第 137 回	平成 3(1991)年	1 月 12 日	稲垣泰一(金城学院大)	井沢長秀考訂『今昔物語』小考
第 138 回		5 月 11 日	今井文男	表現雑考
第 139 回		12 月 14 日	永田友市(愛知淑徳大)	婉曲表現
第 140 回	平成 4(1992)年	12 月 20 日	永田友市(愛知淑徳大)	接尾語「さ」の意味
第 141 回	平成 5(1993)年	9 月 19 日	大野 裕 (愛知県立看護短大)	晶子の百合と『金色夜叉』
第 142 回	平成 6(1994)年	1 月 23 日	林 志保 (岡崎女子短大)	「きつねのおきやくさま」の表現研究
第 143 回		4 月 17 日	森 米二 (愛知県立看護短大)	英詩表現機構へのアプローチ
第 144 回		12 月 18 日	河内 章 (豊田高専)	「我身にたどる姫君」愛の系譜—構想と受容—
第 145 回	平成 7(1995)年	1 月 29 日	片山 武(金城学院大)	万葉の歌の解釈
第 146 回		4 月 21 日	清水良明	「かさこじぞう」の教材研究
第 147 回		6 月 18 日	永田友市(愛知淑徳大)	日本語の「のである」
第 148 回	平成 8(1996)年	6 月 15 日	多門靖容(愛知学院大)	比喩が特権化するとき
第 149 回	6 月 15 日 (マ)		堀尾香代子(愛知大院生)	上代語における文末用法の「やも」「かも」—承ける語・構文に見る特徴—
第 150 回	平成 9(1997)年	3 月 22 日	永田友市(愛知淑徳大)	文章末尾の否定表現
第 151 回		10 月 4 日	大野 裕 (愛知県立看護短大)	『明星』の閨秀玉野花子のこと
第 152 回		11 月 1 日	恒松 侃(愛知高)	枕詞「玉銚の」の系譜 —主として猿田彦大神との関係—
第 153 回	平成 10(1998)年	3 月 28 日	片山 武(金城学院大)	『柿本人麿短歌解』(玉藻抄)について

第 154 回	10 月 25 日	宮武里衣 (中京商業高) 加古有子 (名古屋短大) 青木貴子 (知立市立つ つじヶ丘小)	あらすじの結びの表現—「ごんぎつ ね」のあらすじ調査をもとにした児 童・生徒の言語発達に関する研究— 児童・生徒の感想・気持ち表現の分 析 —「ごんぎつね」のあらすじ調 査をもとにした児童・生徒の言語発 達に関する研究— 漢字表記の実態 —「ごんぎつね」 のあらすじ調査をもとにした児童・ 生徒の言語発達に関する研究—
第 155 回	11 月 28 日	愛知峰子 (中部大)	樋口一葉『にがりえ』の文脈につい て
第 156 回	平成 11 (1999) 年		
	3 月 27 日	片山 武 (金城学院大)	賀茂真淵門流の万葉集研究
第 157 回	6 月 19 日	位田絵美 (名古屋大院 生)	為朝伝説の変遷—近代日本の「琉球」 認識—
第 158 回	11 月 27 日	渡辺香織 (金城学院大 院生)	『万葉集』巻二磐姫皇后歌群の表記
第 159 回	平成 12 (2000) 年		
	4 月 22 日	片山 武 (金城学院大)	賀茂真淵門流の万葉集研究—楫取魚 彦の『萬葉集新釋』—
第 160 回	5 月 27 日	小池保利 (豊橋技術科 学大)	基礎教育としての国語表現
第 161 回	11 月 24 日	清水良明	教科書を考える
第 162 回	平成 13 (2001) 年		
	6 月 23 日	片山 武	賀茂真淵記念館蔵『ちうた』と村上 文庫蔵『萬葉千歌』について
第 163 回	記録ナシ		
第 164 回	記録ナシ		
第 165 回	平成 15 (2003) 年		
	7 月 5 日	恒松 侃	万葉集巻第一、四十八番歌「炎」の 訓みと解釈について
第 166 回	9 月 13 日	湊 吉正	教育・言語・文学をめぐる

第 167 回	平成 16 (2004) 年 5 月 15 日	永田友市	西三河の方言
第 168 回	7 月 24 日	鹿島美千代 (豊橋技術 科学大非) 内藤聡子 (愛知大学綜 合郷土研究所)	「大原や蝶の出で舞ふ朧月」句につ いて—内藤文草の蝶と『莊子』— 万葉集における「逢ふ」の表現につ いて
第 169 回	12 月 11 日	蟹江希世子 (名古屋大 院生)	物語の童名 (わらわな)
第 170 回	平成 17 (2005) 年 4 月 9 日	日沖敦子 (名古屋市大 院生)	つくもかみ放—室町物語『付喪神記』 より
第 171 回	9 月 30 日	松村美奈 (愛知大院生)	井原西鶴『本朝桜陰比事』の表現に ついて—対決の場を中心に—
第 172 回	12 月 10 日	小椋愛子氏 (愛知淑徳 大院生)	『榻鳴曉筆』と出典
第 173 回	平成 18 (2006) 年 4 月 15 日	永田友市	物語の場面構成—自然場面と否定場 面と—
第 174 回	平成 20 (2008) 年 4 月 19 日	神山重彦 (愛知学院大)	ホームページ『物語要素事典』の現 状と将来
第 175 回	平成 21 (2009) 年 3 月 13 日	片山 武	夏目甕磨の万葉摘草について
第 176 回	10 月 3 日	今井 亨 (愛知教育大 非)	古代語の接続助詞「ば」「に」と線 条的展開について
第 177 回	平成 22 (2010) 年 11 月 13 日	片山 武	石水博物館蔵 芝原春房間・本居宣 長答『萬葉集疑問』について
第 178 回	平成 23 (2011) 年 10 月 29 日	齋藤佳子 (名古屋大院 生) 片山 武	「オバサン」の発見と女性の「不倫」 の関係について—山田太一のシナリ オ文学を中心に— 『萬葉集疑問』二冊 芝原春房自筆 問・本居宣長自筆答

- 第 179 回 平成 24 (2012) 年
- 2 月 25 日 長谷部 亜子 (愛知学院
大院生) 「Nのシタ」か「Nのモト」か —
「Nの下」の読みをめぐって
- 小椋 愛子 (愛知淑徳大
学非) 『楊鳴暁筆』における漢籍の受容に
ついて
- 第 180 回 7 月 28 日 小池 保利 (遼寧師範大) 中国の大学における日本語表現の実
践
- 第 181 回 11 月 17 日 松浦 光 (名古屋大院
生) 感情表現とメタファーの—考察—気
象現象に関する表現を中心に—
- 陳 帥 (名古屋大院生) 「あっさり」「すっきり」との比較を
中心に—

松江例会

回	年月日	発表者	題目
第1回	昭和41(1966)年 6月24日	石賀 昇 (島根大附中) 討議	合作の文体—太宰と井伏と— 比喩表現について
第2回	昭和43(1968)年 9月21日	石賀 昇 (島根大附中)	太宰治の文体
第3回	11月16日	伊沢元美 (島根大)	読解・鑑賞と文学研究
第4回	12月25日	田中瑩一 (松江南高)	文章の構成的機能
第5回	昭和44(1969)年 2月1日	寺本喜徳 (松江高専)	近代文学表現史論の試み—子規から直哉へ—
第6回	12月14日	大上寛親 (島根大)	中学生に關係代名詞をいかに教えるか— 変形文法的接近—
第7回	昭和45(1970)年 7月11日	田中瑩一 (島根大)	東石見の田植歌におけるオロシー行構成 の表現
第8回	9月12日	石賀 昇 (島根大附中)	太宰治の文体
第9回	10月17日	寺本喜徳 (松江高専)	言語表現の統合性と連合性
第10回	11月14日	桑原文次郎 (島根大附中)	文章の構造化とその表現
第11回	12月19日	小林定義 (島根大)	「家うちの子」考
第12回	昭和46(1971)年 1月23日	伊沢元美 (島根大)	『暗夜行路』覚え書
第13回	2月13日	加藤義成 (島根大)	出雲国風土記の漢字表現
第14回	6月26日	桑原文次郎 (島根大附中)	ことばの向きについて
第15回	7月26日	森 亮 (島根大)	「生の家」定型訳の試み
第16回	9月12日	田中瑩一 (島根大)	表現における視点の問題
第17回	11月28日	石賀 昇 (松江南高)	イメージの分析

第 18 回	昭和 47(1972) 年		
	1 月 22 日	篠原 実 (島根大)	表現の深さについて (一)
第 19 回	2 月 26 日	篠原 実 (島根大)	表現の深さについて (二)
第 20 回	4 月 16 日	寺本喜徳 (松江高専)	写生文と直哉の初期作品との連りについて (一)
第 30 回	5 月 20 日	寺本喜徳 (松江高専)	写生文と直哉の初期作品との連りについて (二)
第 31 回	7 月 28 日	田中瑩一 (島根大)	文の表現意図から見た文章の観察
第 32 回	11 月 19 日	伊沢元美 (島根大)	文学における直感と意識
第 33 回	12 月 24 日	槇川正己 (島根大)	英作文指導の問題点
第 34 回	昭和 48(1973) 年		
	4 月 14 日	篠原 実 (島根大)	文芸の成立について
第 35 回	5 月 19 日	石賀 昇 (松江南高)	「富嶽百景」の分析
第 36 回	6 月 17 日	田邊福夫 (島根大附中)	構造把握をもとにしながら文章を要約する力
第 37 回	7 月 21 日	金子寛子 (島根大附幼)	幼児の言語表現について
第 38 回	12 月 2 日	寺本喜徳 (松江高専)	「永訣の朝」の構造
第 39 回	昭和 49(1974) 年		
	11 月 30 日		読書会：今井文男『文章表現法大要』
第 40 回	12 月 22 日		検討会：文章表現法研究文献
第 41 回	昭和 50(1975) 年		
	1 月 26 日	小川輝夫 (松江商高)	「コンポジション理論」と文章表現法
第 42 回	3 月 1 日	桑原文次郎 (島根大附中)	国語教育実践と文章論の展開
第 43 回	3 月 16 日	田中瑩一 (島根大)	「生活綴方」と文章表現法
第 44 回	4 月 12 日	寺本喜徳 (松江高専)	森鷗外『阿部一族』と『阿部茶事談』
第 45 回	7 月 28 日	石賀 昇 (松江南高)	評論家の随筆
第 46 回	8 月 22 日	篠原実 (島根大)	『表現学論考』の論文の素稿の検討
		田中瑩一 (島根大)	
		寺本喜徳 (松江高専)	
第 47 回	10 月 19 日	田中瑩一 (島根大)	現在形文末を持つ文の用法
第 48 回	12 月 14 日		読書会：土部弘『文章表現論の方途』

第 49 回	昭和 51 (1976) 年 1 月 31 日		読書会：永尾章曹『国語表現法研究』
第 50 回	6 月 26 日	田中瑩一（島根大）	物語絵本の受容に関する一考察—文章表現の相違が幼児反応に及ぼす影響について—
第 51 回	7 月 26 日		合評会：永尾章曹『国語表現法研究』
第 52 回	9 月 25 日		読書会：『表現学論考』（今井・塚原論文）
第 53 回	10 月 23 日		読書会：『表現学論考』（神尾・市川論文）
第 54 回	11 月 12 日		合評会：国広哲彌氏著『ことばの意味』
第 55 回	12 月 17 日		共同討議： 国広哲彌氏論文「日本語表現の特色と文化心理」 阪倉篤義氏論文「語義記述の現実と理想」
第 56 回	昭和 52 (1977) 年 1 月 4 日		検討会：国語教科書の教材頻度と指導書
第 57 回	2 月 12 日	小川輝夫（松江商高）	高等学校国語科教材の検討
第 58 回	4 月 2 日	長谷川英己（松江工高） 寺本喜徳（松江高専） 田中瑩一（島根大）	謡曲「自然居士」—かけあいの言語芸術について— 志賀直哉「堀端の住まひ」 詩教材における「視点」
第 59 回	6 月 18 日		報告会：表現学会広島大会
第 60 回	10 月 15 日		共同討議：仮定法にはなぜ過去形があらわれるか
第 61 回	11 月 12 日		共同討議：仮定法表現にあらわれた過去形の用例
第 62 回	12 月 17 日		共同討議：仮定法表現とテンス リーチ著・国広訳『意味と英語動詞』他 諸文献について
第 63 回	昭和 53 (1978) 年 1 月 6 日	篠原 実（島根大）	表現研究と「表現指導」との関連について
第 64 回	3 月 18 日		準備会：表現学会松江大会

第 65 回	5 月 8 日		打合せ会：表現学会松江大会
第 66 回	6 月 16 日		反省会：表現学会松江大会
第 67 回	10 月 28 日	寺本喜徳（松江高専）	虚子・天外・鷗外の文章の比較―楊弓場の描写―
第 68 回	11 月 25 日	寺本喜徳（松江高専） 小川輝夫（松江商高）	テーマ：表現と距離 (1)「小景異情その二」の構成 (2)敬語表現と距離
第 69 回	昭和 54(1979)年 1 月 5 日		検討会：表現と距離―指示語をめぐる―
第 70 回	2 月 5 日	田中瑩一（島根大）	中国の日本語教育について
第 71 回	4 月 29 日	小川輝夫（松江商高）	敬語表現と距離
第 72 回	8 月 25 日		報告会：表現学会山口大会
第 73 回	10 月 6 日	田中瑩一（島根大）	中国の小学校一年生用国語教科書の構成
第 74 回	12 月 27 日	小川輝夫（松江商高）	原田章之進氏「文と陳述との基本的関係」の検討
第 75 回	昭和 55(1980)年 1 月 6 日		共同討議：表現とは
第 76 回	3 月 26 日	石賀 昇（安来高）	修辭的段落と論理的段落
第 77 回	4 月 26 日	田中瑩一（島根大）	文の重層的構造図示の試み
第 78 回	6 月 21 日	川島芙美子（松江南高）	芥川龍之介「鼻」の分析
第 79 回	11 月 9 日	寺本喜徳（松江高専）	河井咀華と美文
第 80 回		田中瑩一（島根大）	昔話に見られる「うた」の諸相
第 81 回	12 月 21 日	河角 静（松江南高） 川島芙美子（松江南高）	「浄瑠璃寺の春」の分析 自己診断の過程を取り入れた作文指導
第 82 回	昭和 56(1981)年 4 月 21 日	長谷川英己（松江工高）	「浄瑠璃寺の春」の分析
第 83 回	5 月 30 日		報告会：第 18 回表現学会全国大会
第 84 回	10 月 4 日	大畑俊正（朝日小）	「大自然のつりあい」研究授業報告 読書会：今井文男「文章表現における距離とその生成過程」

第 85 回	12 月 5 日	田中瑩一（島根大）	宮澤賢治の「花鳥童話」諸作品にみられる主題の構造と展開
第 86 回	昭和 57(1988) 年		
	4 月 17 日	寺本喜徳（松江高専）	正岡子規の「意匠」の変遷と写生文
第 87 回	6 月 19 日	田中瑩一（島根大）	メルヘン・ファンタジー・リアリズムー文学教材の構造についてー
第 88 回	11 月 7 日	田中瑩一（島根大）	中華人民共和国における「読むこと」の教材論
第 89 回	12 月 17 日	伊藤善啓（松江高専）	間接言語行動と情報一サールの「間接言語行為」に触れてー
第 90 回	平成 4(1992) 年		
	4 月 25 日	寺本喜徳（島根女短大）	『羅生門』解釈の試みー〈雨〉についてー
第 91 回	5 月 30 日	田中瑩一（島根大）	花田金之助とその時代ー作文教育史・ほかー
第 92 回	6 月 27 日	木村東吉（島根大）	宮澤賢治の詩について
第 93 回	9 月 6 日	石原亨（松江高専）	志賀直哉「蝕まれた友情について」
第 94 回	10 月 31 日	富井俊郎（島根女短大）	G・H ホプキンス＝ソネット
第 95 回	11 月 28 日	富井俊郎（島根女短大）	宮澤賢治「よだかの星」と「なめとこやまの熊」
第 96 回	12 月 26 日	松浦雄二（島根女短大）	イギリスルネッサンスのソネットについて
第 97 回	平成 5(1993) 年		
	1 月 30 日	伊藤善啓（松江高専）	提案発話に対する言語による反応の意味解釈算定基準
第 98 回	3 月 27 日	寺本喜徳（島根女短大）	詩と散文の間ー習作期の原石鼎からー
第 99 回	4 月 24 日	岡 利通（島根大附小）	児童の日記にみられる述べ方について
第 100 回	5 月 29 日	田中瑩一（島根大）	口承文芸の表現研究ー昔話と田植歌を手がかりに
第 101 回	7 月 10 日		報告会：表現学会の研究発表から

第102回	11月13日	山田あき（島根女短大）	母親の行動要求表現における伝達スタイルの日米比較—分析の枠組みを求めて—
第103回	平成6(1994)年		
	1月29日	昌子佳広（島根大附小）	子どもの言語生活—「言語単元」の授業構想と子どもの学習成果から—
第104回	5月14日	河原修一（島根女短大）	「一は一だ」「一は一のだ」などの文構造
第105回	6月18日	島田隆輔（情報科学高）	宮澤賢治「文語詩双四聯」の形成過程の実態
第106回	7月16日	木村東吉（島根大）	宮澤賢治「春と修羅」—修学旅行詩群について—
第107回	9月3日	岡 利通（島根大附小）	児童の日記にみられる述べ方についてⅡ—N. W. 児の2年生時の日記にみられる冒頭文の表現を注視して—
第108回	12月3日	長谷川英己	万葉集の現代表現をめぐって
第109回	平成7(1995)年		
	6月17日	仙田武司（島根大院生）	連体修飾語の問題点—「な」と「の」の差異について—
第110回	9月9日	森脇紀浩（島根大院生）	国語科読書指導の研究—「読書行為力」の強化—「読書行為力」の強化をはかる読みの指導—
第111回	11月18日	石原 亨（松江高専）	『証言 里見弴』をめぐって
第112回	平成8(1996)年		
	3月9日	久村真司（島根大院生）	コンピュータを利用した読むことの学習
第113回	平成9(1997)年		
	3月21日	ショーン・ホワイ（島根大学院生）	待遇表現—日本語におけることばの使い分け—

東京例会

回	年月日	発表者	題目	
第 1 回	昭和 57(1982)年	4 月 25 日	大木二郎(防衛大)	ナンセンスと真理
			佐藤嗣男(明治大)	芥川龍之介の表意符号
第 2 回	7 月 18 日	半沢幹一(共立女子大)	序詞と比喻	
第 3 回	10 月 3 日	佐久間まゆみ(筑波大)	「文段」認定の一基準—提題表現の分布による—	
第 4 回	昭和 58(1983)年	1 月 23 日	高崎みどり(文教大)	鷗外の表現—語り手の様相より見たる—
		4 月 24 日	栗原 裕(共立女子大)	ある小さな翻訳史の話
第 6 回	7 月 17 日	阿久澤 忠(湘南短大)	源氏物語における婉曲表現について—「なめり」の場合—	
第 7 回	10 月 2 日	赤羽研三(防衛大)	詩とことばのあや	
第 8 回	昭 59(1984)年	1 月 22 日	北村弘明(青山学院大 院生)	記号としてのオノマトベと表現
		4 月 22 日	村井幹子(カリタス短大)	『紫式部日記』の文章
第 10 回	7 月 15 日	小宮千鶴子(中央学院 大)	新聞の文章	
第 11 回	10 月 14 日	平賀正子(青山学院大)	“Metaphor We Live By”	
第 12 回	昭和 60(1985)年	1 月 20 日	中村 明(成蹊大)	表現技法の広がり
		4 月 21 日	鈴木敬司(中央学院大)	「絵姿女房」の形象
第 14 回	7 月 14 日	半沢幹一(共立女子大)	喩像論素描	
第 15 回	10 月 6 日	山下公子(区立豎川中)	『富嶽百景』の文体から太宰治の虚構意識を探る	
第 16 回	昭和 61(1986)年	1 月 26 日	橘 豊(茨城大)	手紙文の表現性
		4 月 27 日	市村和久(都立国立高)	思考力と小論文記述指導
第 18 回	7 月 3 日	山口仲美(明海大)	音象徴語に関する一考察	
第 19 回	10 月 5 日	井筒 満	文章表現における段落の問題	

第 20 回	昭和 62(1987)年		
	1 月 26 日	楠見 孝(学習院大 院生)	比喩理解への認知心理学的アプロ ーチ
第 21 回	5 月 10 日	堀切 実(早稲田大)	芭蕉のくり返し表現
第 22 回	7 月 12 日	馬場俊臣(筑波大 院生)	「統括」の位置による文章構造につ いて
第 23 回	10 月 4 日	半沢幹一(共立女子大)	「不沈空母は比喩」考
第 24 回	昭和 63(1988)年		
	1 月 24 日	栗原 裕(共立女子大)	英語の詩のリズム
第 25 回	休会		
第 26 回	7 月 10 日	原田裕子(防衛大)	現代アメリカ文学の一人称による小 説について
第 27 回	10 月 2 日	井島正博(防衛大)	隠喩の語用論的分析
第 28 回	平成元(1989)年		
	1 月 29 日	赤羽研三(防衛大)	隠喩による相互作用
第 29 回	4 月 23 日	鈴木 浩(明治大 院生)	中世末～近世初期文献にみる準体 言の諸表現—準体言衰退の具体相 の把握のために—
第 30 回	7 月 2 日	平野芳信(山梨英和短 大)	谷崎潤一郎『細雪』の語り
第 31 回	10 月 1 日	半沢幹一(共立女子大)	修飾・否定・比喩
第 32 回	平成 2(1990)年		
	1 月 21 日	大木二郎(防衛大)	狂言のパロディ性
第 33 回	4 月 15 日	井筒 満	井伏文学における語り手・作中人物
第 34 回	7 月 15 日	藤村知子(東京外国語 大)	論説文の文章構造類型
第 35 回	11 月 25 日	楠見 孝(筑波大)	比喩表現と知識構造: 認知心理学の 観点から
第 36 回	平成 3(1991)年		
	1 月 27 日	長沼英二(二松学舎大 院生)	初期物語の表現特徴
第 37 回	4 月 28 日	糸川 優(恵泉女学 園短大)	陳述副詞の周辺
第 38 回	7 月 7 日	武内信一(防衛大)	古英語の動詞の意味変化について

第 39 回	10 月 6 日	井上泰至(防衛大)	戯作の表現
第 40 回	平成 4(1992)年		
	1 月 18 日	林 巨樹	起筆の文型その他
第 41 回	4 月 12 日	池谷清美(防衛大)	英語のイディオムについて
第 42 回	7 月 5 日	北村弘明(聖徳大)	名前の美学
第 43 回	10 月 4 日	秋元美晴(恵泉女学園大)	談話における漢語系接尾辞「-上」の機能について
第 44 回	平成 5(1993 年)年		
	1 月 17 日	栗原 裕(共立女子大)	語りの視線
第 45 回	4 月 18 日	小宮千鶴子(中央学院大)	文構造と読者意識
第 46 回	7 月 4 日	佐久間まゆみ(日本女子大)	文章型の諸問題
第 47 回	9 月 26 日	長沼英二(二松学舎大学院生)	雨月物語の作品構成
第 48 回	平成 6(1994)年		
	1 月 16 日	楠見 孝(筑波大)	感情概念と認知モデルの構造
第 49 回	4 月 17 日	小松聡子(お茶の水女子大学院生)	巖谷小波の文体
第 50 回	7 月 3 日	木村義之(早稲田大学院生)	『英国孝氏伝』の資料性
第 51 回	10 月 2 日	千葉俊二(早稲田大)	方法としての「実体鏡」
第 52 回	平成 7(1995)年		
	1 月 29 日	蓮見陽子(学習院大学院生)	同一情報に基づく文章の間の表現差
第 53 回	4 月 16 日	半沢幹一(共立女子大)	比喩表現の概念とイメージ
第 54 回	7 月 2 日	友岡純子(お茶の水女子大学院生)	性表現「ともす」の系譜
第 55 回	10 月 8 日	佐藤嗣男(明治大)	コトバ刺激とコトバ反応と
第 56 回	平成 8(1996)年		
	1 月 28 日	甲斐睦朗	授業の文字化資料の会話分析
第 57 回	4 月 20 日	小林由紀(早稲田大学院生)	指示語のニュアンス

第 58 回	7 月 6 日	赤羽研三(防衛大)	デュクロの意味論
第 59 回	9 月 28 日	阿久澤 忠(湘南短大)	動詞終止形の反復用法の問題
第 60 回	平成 9(1997)年		
	1 月 25 日	中里理子(お茶の水女子大学院生)	言文一致の接続表現—二葉亭・美妙・紅葉の作品を中心に—
第 61 回	4 月 19 日	小池博明(二松学舎大学院生)	歌集巻頭の素材と表現
第 62 回	7 月 5 日	伊藤龍平(国学院大学院生) 保科 恵(二松学舎大学院生) 西山春文(明治大)	第 34 回表現学会全国大会シンポジウム「表現学の現在」を受けて
第 63 回	10 月 11 日	栗原 裕(大妻女子大)	「表現学の現在」その後
第 64 回	平成 10(1998)年		
	1 月 24 日	佐久間まゆみ(日本女子大)	文章論と表現論
第 65 回	4 月 18 日	赤羽研三(防衛大)	表現論と意味論
第 66 回	7 月 4 日	半沢幹一(共立女子大)	なぜ比喩ルのか?
第 67 回	10 月 24 日	神谷くに子(共立女子大)	俳句における形式と表現
第 68 回	平成 11(1999)年		
	1 月 30 日	長沼英二(明治大非)	「勅撰」と表現の選択
第 69 回	4 月 24 日	後藤利枝(日本女子大学院生)	新聞社説の文末述部における見出しの反復表現
第 70 回	7 月 10 日	柳澤幹夫(明治大非)	谷崎潤一郎・いわゆる〈古典回帰〉前後の文章性質
第 71 回	10 月 9 日	多比羅 拓(東京学芸大学院生)	鷲流狂言台本保教本の注記について
第 72 回	平成 12(2000)年		
	1 月 29 日	阿久澤 忠(湘南短大)	土佐日記における「ずして」「で」「ず」の用法
第 73 回	4 月 22 日	伊藤龍平(国学院大学院生)	比喩に見られる伝承上の人物

第 74 回	7 月 15 日	福島 昇(日本大)	ロミオの最初の台詞から—オクシモロンに照明を当てて—
第 75 回	11 月 4 日	高崎みどり(明治大)	コ・ソ・アの談話機能について—指示先がないように見える例を対象として—
第 76 回	平成 13(2001)年 1 月 27 日	斐 秀 堂(早稲田大院 生)	〈自己行動〉について言及する言語表現
第 77 回	4 月 21 日	高橋 淑 郎(早稲田大院 生)	講義談話における「脇道」と「本筋」
第 78 回	7 月 28 日	宋 恵仙(お茶の水女子 大院生)	日韓授受構文の対照研究
第 79 回	11 月 10 日	水藤新子(早稲田大非)	幸田文の「感覚的」世界
第 80 回	平成 14(2002)年 1 月 26 日	氏家千恵	再話の中のかぐや姫
第 81 回	4 月 20 日	立川和美(明治大非)	女子中学生の手紙文に関する考察
第 82 回	7 月 6 日	市川庸輔(国学院大院 生)	茂吉短歌の動作表現史—作中人物の現前化を中心に—
第 83 回	11 月 2 日	稲益佐知子(城西国際 大非)	比喩表現を構成する要素の相互関係について—指標ヨウを用いる例を中心に—
第 84 回	平成 15(2003)年 2 月 1 日	倉田静佳(東北大学院 生)	馬琴読本における漢語接辞「然」を含む語と表記
第 85 回	4 月 26 日	小林由紀(神奈川大非)	文章中の「独立名詞節」について
第 86 回	7 月 5 日	長沼英二(明治大非)	「さぐる」と「まさぐる」攷—専用と汎用—
第 87 回	11 月 8 日	石出靖雄(学習院女子 中高)	漱石作品における発言部分と地の文との関係
第 88 回	平成 16(2004)年 1 月 24 日	湯浅千映子(学習院大 院生)	子どもに向けた談話の構造—ラジオ電話相談の事例から—
第 89 回	4 月 24 日	半沢幹一(共立女子大)	再考:文体にとって比喩とは何か?

第 90 回	7 月 31 日	水藤新子(早稲田大非)	「怪異譚」の表現—いわゆる「都市伝説」を対象として—
第 91 回	10 月 30 日	若狭 絢(早稲田大院生)	現代小説における漢字レトリックの研究—「あか」の書き分けに見られる表記法—
第 92 回	平成 17(2005)年 1 月 22 日	長沼英二(明治大非)	現代俳句の主格表示—『句集 創世記』における「の」と「が」—
第 93 回	4 月 30 日	石黒 圭(一橋大)	文章構成における「転」について
第 94 回	7 月 23 日	福川雅美(早稲田大院生)	詩的表現の研究方法について
第 95 回	10 月 29 日	茗荷 円(聖心女子大院生)	江戸川乱歩のオノマトペ—文体へのアプローチとして—
第 96 回	平成 18(2006)年 1 月 28 日	湯浅千映子(学習院大院生)	子ども向け談話のスタイルの選択—ラジオ電話相談の事例から—
第 97 回	4 月 22 日	長沼英二(明治大非)	字音語の使用と文体—『源氏物語』を対象として—
第 98 回	7 月 29 日	田貝和子(東洋大非)	明治女流作家の翻訳小説—その文体の変化—
第 99 回	10 月 28 日	上田光一郎(聖徳大院生)	散文における文脈についての—考察—「術語としての文脈」の成立への試みとして—
第 100 回	平成 19(2007)年 1 月 27 日	栗原 裕(大妻女子大)	五七の生理
第 101 回	4 月 28 日	長沼英二(明治大非)	王朝和歌における漢語受容の原理—例えば、なぜ「碧空」派「アを空」ではないのか—
第 102 回	7 月 28 日	村田拓也(成蹊大院生)	「荒地」派詩人と谷川俊太郎—擬人化表現の認知的分析を通して—
第 103 回	11 月 10 日	森 雄一(成蹊大)	明示的提喩・換喩形式と代表詞
第 104 回	平成 20(2008)年 2 月 2 日	高野敦志(早稲田院生)	非有生主語を持つ他動詞構文の表現性

第 105 回	4 月 26 日	宮城 信(筑波大院生)	周辺の位置関係を表す相対名詞の意味論
第 106 回	7 月 26 日	小池博明(長野高専)	拾遺和歌集「なるらむ」歌の具体相—藤原公任の藤花詠—
第 107 回	10 月 18 日	小林由紀(慶応大非)	指示語のニュアンス文脈指示とその周辺の用法について
第 108 回	平成 21(2009)年		
	1 月 24 日	安 明 姫(早稲田大院生)	新聞コラムの文の接続関係による要約文の表現類型
第 109 回	4 月 25 日	鈴木敬司	文学作品における形象の考察—椋鳩十「月の輪熊」をめぐる—
第 110 回	7 月 25 日	百瀬みのり(お茶の水女子大院生)	初期軍記物語における文末形式と接続表現の結びつき
第 111 回	11 月 7 日	水藤新子(中央学院大)	向田邦子の感情表現—『思い出トラップ』を対象に—
第 112 回	平成 22(2010)年		
	1 月 30 日	長沼英二(明治大非)	土左日記の指示表現—文脈指示を考える—
第 113 回	4 月 24 日	茗荷 円(聖心女子大院生)	近代女性書簡文の文体と結語—明治中期から昭和戦中期まで—
第 114 回	7 月 24 日	井之浦茉莉(お茶の水女子大院生)	歌舞伎におけるオノマトペ
第 115 回	10 月 30 日	苅宿紀子(早稲田大院生)	シナリオにおける主題を示す表現の使用状況—無助詞を中心に—
第 116 回	平成 23(2011)年		
	1 月 29 日	田貝和子(東洋大非) 長沼英二(明治大非) 深津謙一郎(共立女子大)	シンポジウム:〈視点〉で読む「羅生門」
第 117 回	4 月 30 日	新野直哉(国立国語研)	新語“なにげに”をめぐる「国語意識史」記述の試み—新聞・雑誌記事に基づき—

第 118 回	7 月 30 日	高野敦志(高崎経済大非)	視点と文末表現—三島由紀夫「憂国」および太宰治「富嶽百景」を資料として—
第 119 回	11 月 5 日	咲本英恵(共立女子大)	『源氏物語』宇治大君の死の表現—「もののかれゆくやうにて」という直喩の特異性—
第 120 回	平成 24(2012)年 1 月 21 日	劉 時珍(一橋大院生)	コーパスに見る否定の陳述副詞の文体的特徴
第 121 回	4 月 28 日	奈良夕里枝(フェリス女学院大)	推理小説に見られるトスレバ、トシタラ、トスルト、トナレバ、トナルトによる推論
第 122 回	7 月 21 日	苺宿紀子(早稲田大院生)	談話における格助詞の使用と文末表現との関わり
第 123 回	11 月 10 日	梁 青(名古屋大院生)	『新撰万葉集』聞怨詩の日本的展開
第 124 回	平成 25(2013)年 1 月 12 日	石井久美子(お茶の水女子大院生)	大正期の雑誌における外来語の実態—『婦人公論』『中央公論』を資料に—
第 125 回	4 月 27 日	荒籾善成(ヒューマンアカデミー)	「た」の表現機能と意味

広島例会（1990年以降分）

回	年月日	発表者	題目
第1回	平成2(1990)年 12月15日	柳澤浩哉(広島大)	ブルータスの雄弁と虚偽
第2回	平成3(1991)年 4月20日	落合由治(広島大院生)	場面の中で接続詞のはたす役割—『夢十夜』を中心に—
第3回	6月29日	王世和(広島大院生)	文末に現れる「動詞＋ている」の分類—志賀直哉の「十一月三日の午後の事」・「城の崎にて」・「雪の日」・「濠端の住まい」・「雨蛙」を対象にする—
第4回	9月7日	李錦宰(広島大院生)	芥川龍之介作品に見られる否定表現について
第5回	12月7日	路玉昌(広島大院生)	芥川龍之介作品における接続助詞「が」について—その用法とそこから見られる芥川の文章の一特徴—
第6回	平成4(1992)年 4月25日	柳澤浩哉(広島大)	テイルのムード
第7回	平成5(1993)年 12月11日	朴青国(広島大院生)	日本語の談話における「なぞる表現」について
第8回	平成7(1995)年 7月29日	林憲燦(広島大院生)	日韓両語における受け表現の比較
第9回	9月16日	澤智子(広島大院生)	谷崎潤一郎『盲目物語』の表記法について
第10回	12月16日	鄭理珠(広島大学院生)	否定疑問文の研究
第11回	平成8(1996)年 5月11日	尹鎬淑(広島大院生)	日韓両語における受け身の視点の変遷—近代の小説を中心として—
第12回	10月26日	橋本敬司(広島大)	中原中也の詩における「空」—歌生成の場所・言葉—

第 13 回	11 月 1 日	田中榮一(広島文教女子大) 内山智也(広島大院生)	民話と民話の表現研究 三島由紀夫の「文体」研究
第 14 回	平成 9(1997)年 1 月 18 日	白 鐘珉(広島大院生)	日本語の概言の表現に関する一考察「ようだ」と「らしい」の比較を中心に—
第 15 回	平成 10(1998)年 4 月 4 日	柳澤浩哉(広島大)	「国家に人を殺す権利があるのか」の説得力はどこから来るか—意味成分と選択制限から考える—
第 16 回	12 月 19 日	坂田光美(安田女子大院生) 劉 恩聖(広島大院生)	「ない」文の用法について—「しかし」に関わる連文からの一考察— 日本語の「連用名詞(を)+「する」表現にかんする一考察—韓国語との比較の観点から—
第 17 回	平成 11(1999)年 12 月 25 日	小田澄子(安田女子大院生) 磯辺 悌志(修道中・高)	時の感覚を示す「その途端」と「～と思うと」について—事件の話をする文章の文脈展開を中心に— 川端康成の作品に見られる「やうだ」の指標を伴う比喻と「てゐた」文で始まる段落について
第 18 回	平成 12(2000)年 7 月 29 日	肖 婷婷(広島文教女子大院生)	説得レトリックについての研究—エトスとずらし—
第 19 回	平成 14(2002)年 2 月 16 日	徐 洪(広島大院生)	安部公房『燃え尽きた地図』の文体
第 20 回	9 月 28 日	柳澤浩哉(広島大)	文章分析における現在感(presence)の有効性

第 21 回	平成 20(2008)年		
	3月29日	羅 米良(神戸大院生)	「漢語副詞+助詞/ゼロ助詞」構造について
		柳澤浩哉(広島大)	『ハウルの動く城』の謎を解く —映画の見方・読み解き方—
第 22 回	9月27日	大場 美和子(広島女学院大)	一人の受け手に向けた話題の開始と展開 —接触場面と母語場面の三者自由会話の分析—
		柳澤浩哉(広島大)	「先生」はなぜ殉死したのか —『ころ』の謎を解く—
第 23 回	平成 22(2010)年		
	3月27日	宮城 信(大島商船高専)	物語絵の認知と表現 —四コマ漫画の流れの捉え方—
		柳澤浩哉(広島大)	李徴の詩に「欠けるところ」の正体、この作品は果たして悲劇なのか
第 24 回	11月23日		パネルセッション 「数の数え方」
		友定賢治(県立広島大)	パネルセッションの概要と目的
		宮城 信(大島商船高専)	概数量副詞の数え方
		岩田一成(広島市立大)	日本語数詞「一」に関する一考察
		岩城裕之(呉工業高専)	「多い」と「少ない」ことの非対称性
第 25 回	平成 23(2011)年		
	9月24日	柳澤浩哉(広島大)	K はなぜ自殺したのか—『ころ』における
		汪海	矛盾の意味—

近畿例会

回	年月日	発表者	題目
第1回	平成9(1997)年 10月4日	北林利治(京都橘大) 神尾暢子(大阪教育大)	英語における場所表現—場所の主語化を中心— 擬古物語の題名「松浦」
第2回	平成10(1998)年 2月14日	藤田保幸(滋賀大) 三宅雅明(武庫川女子大)	引用構文の構造 [講演]文体の重層性—T.S.エリオットの『四つの四重奏』の場合—
第3回	平成10(1998)年 10月3日	松原泰子(武庫川女子大) 早川勝広(大阪教育大)	T.S.エリオットの詩における節片意識 幼児のことば育ちの実態と課題
第4回	平成11(1999)年 1月9日	坂田達紀(舞鶴工業高専)	小林秀雄の文体—青春の挫折と再生—
第5回	10月2日	余田弘実(西山短大) 西岡武彦(神戸市外国語大院生)	近世料理書の漢字表記 英語における譲歩表現の一考察—thoughを中心として—
第6回	平成12(2000)年 1月8日	長谷部陽一郎(同志社大院生) 橋本行洋(花園大)	助詞「は」の意味構造と談話における機能 “笑かず”と“笑ける”
第7回	9月16日	清水泰生(臨南寺東洋文化研究所) 村上明子(関西外国大)	「～たあと」の類似表現をめぐって 文学研究と語用論の接点を求めて—田山花袋の詠歌の解釈を例として—

第 8 回	平成 13(2001)年		
	1 月 13 日	内田 浩(大阪教育大 院生)	論理的文章における条件表現について— 「ば」「と」「たら」の基本的用法とその応用—
		塩田英子(龍谷大院 生)	伝達行為としてのテロップ—関連性理論か らの一考察—
		福井淳子(神戸学院 大非)	紀行文の成立
第 9 回	10 月 6 日	池田俊之(同志社大 非)	ジョーク理解のメカニズム
		柳瀬万里(鳴門教育 大)	三玉祭の和歌表現について
第 10 回	平成 14(2002)年		
	1 月 12 日	大島中正(同志社女 子大)	語釈による語彙研究—『例解新国語辞典』 を調査資料として—
		西川真理子(甲子園 太)	日本語の評価的文副詞の「も」について
第 11 回	10 月 5 日	藤田保幸(滋賀大)	複合辞の記述研究の展望と現在—「として」 を例にして—
		大川英明(関西外国 大)	留学生の聴き取りの問題点
第 12 回	平成 15(2003)年		
	1 月 11 日	安井重雄(龍谷大)	六条藤家歌合判詞の一特色(その独自の 文章スタイルについて論じる)
		糸井通浩(龍谷大)	日本語の音数律について—「四拍子論」を 批判的に見直す—
第 13 回	10 月 4 日	石黒みか(龍谷大研 究生)	源氏物語の服飾表現
		堀口誠信(徳島文理 短大)	ポチとスポッティ(spottie); トウルーマンと つるマン(Truman)
		糸井通浩(龍谷大)	[ティーチイン]メトニミーはレトリックか

第 14 回 平成 16(2004)年

1 月 10 日 泉 文明(龍谷大) 韓国語と対応する漢語—第 2 言語習得の観点から—

武田千恵子(関西外国語短大) 「のに」・「くせに」についての—考察—日英語表現の比較・対照の視点から—

第 15 回 10 月 9 日 船所武志(四天王寺国際仏教大) 言語表現の場と場面—近代小説の場面構築

吉村耕治(関西外国語短大) 日英語の色名の相違点

三浦秀松(徳島文理大) 日本語再帰表現再考

第 16 回 平成 17(2005)年

1 月 22 日 塩田英子(同志社大非) 他者の認識と反復表現

吉田 敬(愛知淑徳大) 日本の歌謡曲における音節構造と音符の関連—作成年代とジャンルに着目して—

第 17 回 10 月 15 日 山東 功(大阪府立大) 国語科教育と普通文
新稲法子(仏教大非) 作詩層と詩風

第 18 回 平成 18(2006)年 1 月 21 日 長谷部陽一郎(徳島文理短大) 認知意味論による外来語の分析に関する試論

村上明子(関西外国語短大) 粗野が「文学」に変わる時—江戸武家和歌の成立—

第 19 回 9 月 23 日 徐 民静(龍谷大院生) 補助動詞「くる： 」の日韓両言語の対照研究

中山英治(大阪府立大非) 国語教育における文法的説明能力

武田千恵子(関西外国語短大) 吉本ばななのオノマトベ「しん」の使用法

第 20 回 平成 19(2007)年 1 月 13 日 西川真理子(甲子園大) 「Xことに」と「Xもので」について

東森 勲(龍谷大) ジョークと類似性: 関連性理論による分析

第 21 回	10 月 20 日	清水泰生(日本マスターズ陸上競技連合) 佐藤貴裕(岐阜大)	スポーツ用語の類義語について 『珠玉節用万代宝匣』の意図—朝鮮通信使にあてこんだ辞書—
第 22 回	平成 20(2008)年 1 月 26 日	廣部智子(滋賀大生) 田村幸誠(滋賀大)	坪内逍遙訳シェークスピア演劇の言語について 通言語的に見た英語移動構文の特徴
第 23 回	10 月 4 日	張 偉莉(龍谷大 院生) 藤岡克則(徳島文理 短大)	ムード形式「ワケダ」の中国語訳について— 肯定・否定の関係を手掛かりに— 日英語の受動構文について
第 24 回	平成 21(2009)年 2 月 14 日	下岡邦子(龍谷大 院生) 西田隆政(甲南女子 大)	「焦る」と「慌てる」 源氏物語のテキストの表現構成
第 25 回	10 月 17 日	山本和恵(同志社大 院生) 真仁田栄治(龍谷大 院生) 鈴木 泰(京都橘大)	一人称小説のテキスト内における受身文の 選択 現代日本語の思考の対象を表す複合辞に ついて—ラメグッテを中心に— [講演]古典文法のパラダイム
第 26 回	平成 22(2010)年 2 月 27 日	石崎一樹(徳島文理 大)	音楽で文学を表現すること—One Ring Zero の例から—
第 27 回	10 月 30 日	安井寿枝(甲南大非) 藤田保幸(龍谷大)	里見弴・大正期の作品に見られる男性の自 称詞—「僕」「俺」「あたし」— 森鴎外訳「ふた夜」の疑問表現について
第 28 回	平成 23(2011)年 1 月 22 日	宗像衣子(神戸樟蔭 女子学院大) 中島一裕(帝塚山大)	フランス象徴詞人マラルメにおける感性の 問題 感性・感覚の表現論のために

第 29 回	10 月 29 日	加納麻衣子(ノートル ダム清心女子大 院生) 窪田恵理奈(大阪樟 蔭女子大非)	主体的表現「やはり／やっぱり」とその英語 対応表現の示す認識 『法華百座聞書抄』の動詞の表記—送り仮 名についての検討
第 30 回	平成 24(2012)年		
	1 月 28 日	穂竝賢洋(同志社大 院生) 張 子如(同志社大 院生) 伊藤博文(徳島文 理大)	日向弁のモダリティ表現—同意要求表現 「コッセン」を中心に— 「コレ」と「ソレ」の文脈展開機能—「清兵衛 と瓢箪」を例として— 言語における主体・客体の統一と分裂